

日本文化圏のWeb調査

平澤 洋一*

The Investigation of Japanese Culture through Web use

HIRASAWA Yoichi*

The present research is to clarify the fundamental layers and the boundary lines of Japanese culture. Any demarcation chart of modern dialects reflects nothing but a part of current regional culture. For cultural fundamental layers to be determined, a set of comprehensive approved standards that can admit of blood types, stonework distribution, vegetation distribution, human culture layers, etc. are indispensable.

Keywords: Japanese culture, fundamental layer, cultural sphere, boundary line

* 城西大学教授

1 はじめに

本研究は、現代日本文化は9基層文化圏からなるハイブリッド型の文化圏ではないかという仮説を立てて中間報告⁽¹⁾をしてきた。具体的には、1. アイヌ文化圏、2. ミズナラ帯文化圏、3. 焼畑農業文化圏、4. 餅なし正月文化圏、5. 佐渡文化圏、6. 照葉樹林文化圏、7. 隼人文化圏、8. 琉球文化圏、9. 宮古・先島文化圏の諸文化圏であり、そのように分ける認定基準として次の4項を提案した。

- (1) 本方言の5大区画が「日本文化の小文化圏」に重なるわけではない。
- (2) 文化圏は、遺伝子・植物・歴史・出土品・習俗・方言などの基準を総合化して認定すべきである。
- (3) 紀元前1万3千年頃までに渡来した民族による佐渡文化圏と宮古文化圏>移住・伝播してミズナラ帯を中心とする縄文人文化圏>他の文化圏との接触をほとんどもたないアイヌ文化圏、宮古・先島文化圏ができる>山間部などで焼畑文化圏>餅なし正月圏が形成か、隼人文化圏の形成もこの頃か>西日本の照葉樹林帯を中心とする弥生人文化圏という伝播経路が推定される。
- (4) 日本文化の基層の上に住民の移動や時代による社会変化などが幾重にも重なってきたので、現代の小文化圏を確定するには、それを実証するための詳細な調査が必要となる。

上記(3)の「紀元前1万3千年頃までに」という記述は、すでに松本秀雄(1992)がGm遺伝子による調査結果をもとに「日本民族の基幹をなすものは、主としてアジア大陸と日本列島をつなぐ陸橋の存在する時代を含めて、2~3万年前から1万数千年前に入ってきたものである」⁽²⁾と述べておられたことを考慮して「紀元前2、3万年前から1万3千年頃までに」に訂正したい。9文化圏のうち、アイヌ文化圏、佐渡文化圏、宮古・先島文化圏という3文化圏については、境界線の認定は比較的容易であると予想されるが、残る6文化圏の境界線を明らかにすることには注意を要する。

2 北方経路が古層か

松本秀雄(1992)によると、人種の違いが識別できる血液型である「Gmab³st 遺伝子」調査では、ロシア・バイカル地方から中国北部・北朝鮮・韓国・日本一帯に同系統の遺伝子型が見られる(図1参照)。ただし、(a) アイヌ・佐渡・飛鳥(秋田)・奄美・宮古(沖縄)・

石垣・与那国は別の類型に属し、(b) アイヌと奄美・宮古・石垣・与那国の間には等質性が見られ、(c) アイヌと佐渡の人々は北方型蒙古系民族の特徴である「青の ag 遺伝子」が強く、南方型蒙古系民族の特徴である「赤の afb1b3 遺伝子」の影響が少ないので、一般の日本人集団よりもより古い集団であるという。

図2は坪井洋文(1982³⁾による「餅なし正月」の分布図である。当時の氏とは同じ職場(国学院大学日本文化研究所)にいたのであるが、昭和50年代の正月期にはたびたび調査に

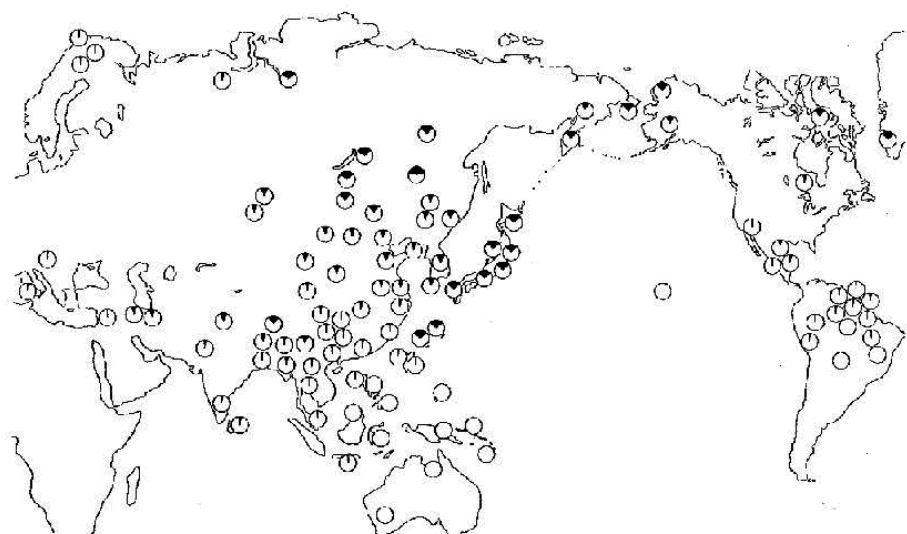


図1 Gm 遺伝子の分布 (松本秀雄 1992)

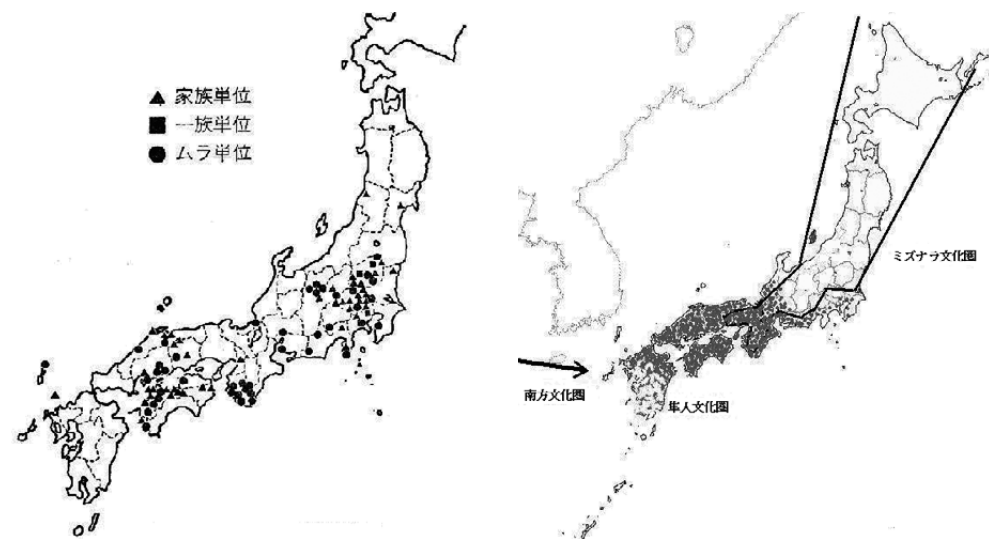


図2 餅なし正月 (坪井洋文 1982 による)

図3 日本文化圏の古層 (推定)

行っていたようであり、その頃の調査データに基づく分布図と考えられる。「餅なし」ということは正月の儀礼に里芋を用いる習俗の文化圏といいいい。関東北部や南近畿・瀬戸内地域に分布が多いことからみて、縄文時代の文化圏の面影を残す資料の一つとみていいのではないだろうか。また、図3は松本秀雄(1992)、田中 琢・佐原 真(1993)⁴⁾などの先行研究の成果をもとに推定・作図した弥生時代の古層である。今のところ推測の域を出ないが、南方ルートからの稲作文化が九州の隼人文化圏や本州西部の文化圏の伝播していき、本州北部の縄文式文化圏の強い勢力と対峙する形で接境地帯を形成し、それが東文化圏・西文化圏の基礎をなした可能性がある。

第1節で触れた9文化圏と、

- ①の ag 遺伝子の影響が大きい。
- ②ミズナラが広く分布する。
- ③独自文化圏を形成した(習俗、儀礼、方言など)。
- ④餅なし正月の分布が色濃い。
- ⑤最近まで焼畑農業の分布が広く見られた。
- ⑥大陸系弥生文化圏の特徴が強い(稲作、鉄器、餅を儀礼に用いるなど)。
- ⑦隼人文化圏の特徴が強い(アクセント・拍構造などの方言特徴など)。

これらの要素との関係をまとめると表1を得る。①は2万3千年前には勢力をもっていた文化圏であり、松本秀雄(1992)のいう南方型蒙古系民族の特徴を示す「赤の afb1b3 遺伝子」の影響が少ない地域である。②はミズナラ帯を中心とする縄文人文化圏を形成した地域であり、①からの移住民と推定される縄文文化圏。

③は他の文化圏との接触をほとんどもないアイヌ文化圏および宮古・先島文化圏などを指す。田中 琢・佐原 真(1993)によれば、アイヌの人びとの歯は縄文人の歯より小さいことから、アイヌ文化は縄文文化よりも古い層であると考えられるという。④の餅なし正月圏は周辺部や山間部に多く分布するので、伝搬の原則からみても⑤よりは古い。⑤の焼畑文化圏は本州では日本海側海岸部に多く、四国・九州は全地域に分布する。⑥は米文化とともに中国中央部から大陸系弥生人が渡来し。西日本の照葉樹林帯を中心に弥生文化圏を形成した文化圏である。⑦九州の先住民と推定される。

表1の9文化圏の相互の距離を、原データのユークリッド距離(原データの距離計算)とワード法(合併後の距離計算)で計算した結果をデンドログラムで表示すると図4のようになる。この図は、これまで議論してきた小文化圏の遠近関係、新古関係をおおむねうまく反映している。

表1 9文化圏に強く見られる特徴

文化圏	①青の ag 遺伝子	②ミズナラ 帯	③独自文化 圏成立	④餅なし正 月	⑤焼畑文化	⑥大陸系 弥生文化	⑦隼人文化
1. アイヌ文化圏	0	0	1	0	0	0	0
2. ミズナラ帯文化圏	0	1	0	1	1	0	0
3. 焼畑農業文化圏	0	0	0	0	1	0	0
4. 餅なし正月文化圏	0	0	0	1	0	0	0
5. 佐渡文化圏	1	1	0	0	0	0	0
6. 照葉樹林文化圏	0	0	0	1	1	1	0
7. 隼人文化圏	0	0	0	0	1	0	1
8. 琉球文化圏	0	0	0	0	0	0	0
9. 宮古・先島文化圏	1	0	1	0	0	0	0

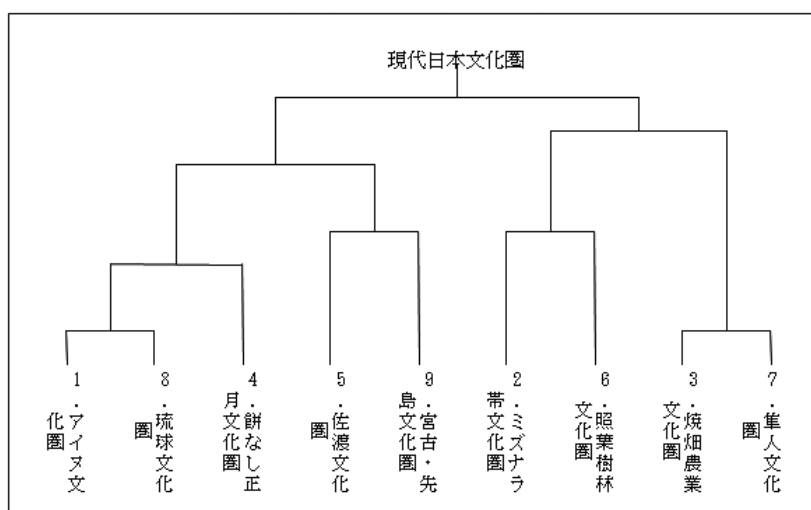


図4 日本小文化圏のデンドログラム

3 現代文化圏の調査

本研究では現代日本におけるおおよその小文化圏の分布とそれらの新旧の考察とクラスター化を明らかにするため、第1次調査としての予備調査を計画し、Webを利用して調査することにした。その初期画面を図5に示す (Web関係は本研究の研究協力者である松永公廣教授の全面的なお力添えをいただいた)。被調査者がIDとパスワードを入力・送信すると、調査画面が現れる。この予備調査では、被験者調査項目と小文化圏調査項目とを設定した。前者は(1)被調査者の氏名、(2)満年齢、(3)性別、(4)出身地、(5)現住所、(6)現住所での居住年数、(7)職業の7項目を設定した。調査圏は日本(北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州、沖縄本島・宮古諸島・八重山諸島、佐渡、日本海沿岸部、太平洋ベルト地帯)のほかにロシア・バイカル地方、中国北部および西部、韓国、

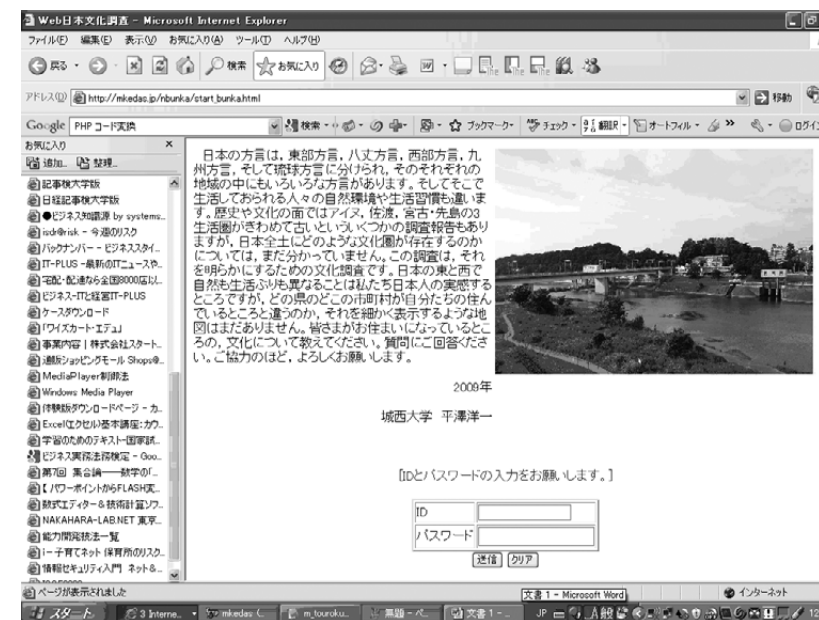


図5 松永公廣教授による初期画面

台湾の被調査者を調査できればと考えている。

小文化圏の調査項目を以下に示す。

- (1) 貴地域はミズナラが多いですか、照葉樹林が多いですか。
- (2) かつて焼き畑農業が行われていましたか。そう聞いたことがありますか。
- (3) お正月にはお餅を食べる習慣がありますか。
- (4) どんなお雑煮が伝統ですか (角餅・丸餅・大きな餅・焼餅・煮た餅、餡入り、黄粉を添える、澄まし汁・胡桃汁・赤味噌汁・合せ味噌汁、鯨・小魚・イクラ・牡蠣・干し焼き海老、青菜・芋・蕪・大根・人参が入りますか)。
- (5) お正月や他の行事の儀礼食として山芋が使われますか。
- (6) 貴地域のお寿司は江戸前 (新鮮なネタを使ったにぎり寿司で、マグロをはじめとする赤身のネタが中心) ですか関西風 (飯が六分、ネタ四分、ネタはタイなどの白身が多く、箱型の寿司) ですか。
- (7) てんぷらは「ころも揚げのてんぷら」のみを意味しますか、「さつま揚げ」もてんぷらとイイますか。
- (8) ご飯を握るときは、三角型の「おにぎり」にしますか、俵形にして黒ごまなどをふりますか。

- (9) 「きつね」は油揚げをのせた蕎麦(そば)・うどん、「たぬき」は天かすの入った蕎麦・うどんを指しますか。それとも「きつね」は油揚げをのせたうどん、「たぬき」は油揚げをのせた蕎麦を指しますか。
- (10) ご家庭のお醤油は、大豆と小麦をほぼ等量に使う濃口醤油ですか、それとも大豆に小麦または米を使った薄口醤油ですか。
- (11) 「わたしの茶碗」「わたしの箸」という生活習慣が残っていますか。
- (12) かつて貴地域には地床(地面・土座)形式の民家がありましたか。
- (13) 打消しにはナイとンのどちらをよく使いますか。
- (14) 「人がいる」を表現する時、方言ではイルといますかオルといますか。
- (15) 「(ご飯を)炊く」は、方言ではタクですかニルですか。
- (16) アカイを「明るい」意味で使うことがありますか。
- (17) 親指にはどんな意味がありますか(例えば親父、男)。
- (18) 小指にはどんな意味がありますか(例えば子供、彼女、俺の女、末っ子、トイレに行きたい)。
- (19) 目を閉じ額や眉や目を親指と人差指で擦ると、どんな意味になりますか。
- (20) 話し手が話をしながら人差指を鼻の下にもっていくと、どんな意味になりますか。
- (21) 他人の家を訪ねたときに、玄関でどのように声をかけますか(例えばオツタカ、イタカネー、オルカイなど)。
- (22) 「怠け者」「不用者」を表す方言がありますか(例えばノラ、フヨーモン、フヨージン、その他)。
- (23) 「放蕩者」を表す方言がありますか(例えばドラ、ドーラ、ドラウチ、サケドラ、ドラオトコ、ドラオナゴ、オナゴドラ、アソビドラなど)。
その方言はどんな時に使いますか。
- (24) あなたの住んでおられる市町村と「文化」が近いと感じる市町村はどこですか(複数回答可)。
- (25) あなたが親しみを覚える都道府県はどこですか(複数回答可)。

4 予備調査の狙い

調査項目(1)(2)は植物文化圏を探索するものであり、南関東・東海・富山・石川などの地域においては、森林の伐採や風によって運ばれた花粉によるアカマツやコナラ亜属

の二次林の発生、宅地の造成、生活環境の都市化などの影響を受けても、照葉樹林帯の範囲が変化していないかどうか。この結果を踏まえて臨地調査(第2次調査)に進むことになるが、計画の域を脱していない。

調査項目(3)～(11)は食文化圏の広がりを見るのが目的である。餅なし正月も儀礼食としての山芋も、坪井洋文(1982)の先行調査から30年近く経過した現在での実態を把握するのが狙い。(11)は銘々器の習慣、「わたしの茶碗」「わたしの箸」という生活習慣が残っているかどうかを調査する項目である。朝鮮半島では飯碗・汁碗・箸・スプーンの4つが銘々器であるが、「わたしの茶碗」「わたしの箸」といった習慣が残っている文化であれば、かつては北方型の文化圏であったという位置づけができる。食文化の地理的分布を明確に実証するための先行文献が乏しいため、それを補う全国規模での実態調査が必要である。

調査小項目は(a)雑煮、(b)寿司、(c)てんぷら、(d)おにぎり／おむすび、(e)蕎麦、(f)醤油、(g)銘々器の習慣などが考えられる。(a)の雑煮では、餅(角餅・丸餅・大きな餅・焼餅・煮た餅)、餡入り、黄粉を添える、澄まし汁・胡桃汁・赤味噌汁・合せ味噌汁、鯨・小魚・イクラ・牡蠣・干し焼き海老、青菜・芋・蕪・大根・人参などが重要な分類基準になるのではないかと予想され、これらの基準をもとに考えると、日本には、北海道(角餅、鯨の皮を入れ、澄まし汁)、東北(角餅、イクラや焼き魚を載せ、澄まし汁、岩手の沿岸部では餅を胡桃汁に付けて)、金沢・富山・新潟・長野・関東(角餅、イクラを載せ、澄まし汁)、静岡・愛知、近畿(丸餅)、中国・四国(丸餅、餅に餡を入れたり黄粉を添えたり、広島では牡蠣を載せる、味噌仕立て)、九州(丸餅、鹿児島では干し焼き海老を載せ、味噌仕立て)、沖縄(餅なし)——この8文化圏の存在が予想される(カッコ内は特徴的な構成要素を示す)。

照葉樹林帯ではおおむね丸餅・味噌仕立ての雑煮文化のようであるが、東日本を中心に分布するミズナラ帯は粟・稗・蕎麦・芋類の文化圏であったから、角餅・澄まし汁の雑煮地域がある一方で他の一部地域に「餅なし正月」の伝統が残存するのも当然である(図2参照)。

(b)の寿司は、対象とする文化地域では江戸前(新鮮なネタを使ったにぎり寿司で、マグロをはじめとする赤身のネタが中心)であるか関西風(飯が六分、ネタ四分、ネタはタイなどの白身が多く、箱型の寿司)であるかを問う。

(c)のてんぷらは、ころも揚げのてんぷらのみを意味するのか(関東)さつま揚げをも含めて言う(関西)のか、(d)のおにぎり／おむすびは、三角型の「おにぎり」(平安時代

の「屯食」を語源とし、人数の多い下級役人に器を使わず握った飯を出して間に合わせた戦国時代の兵糧食の流れをくむ「握り飯」の名は江戸時代に定着)を地域文化とするか、俵形で表面に黒ごまがふってあることが多い「おむすび」(女房ことばに始まり関西一帯に勢力をもつ。祭祀の際に神への供え物にした「結び」を原型とする説も)をそれとするかを問うもの。(e)の蕎麦は、関東では「きつね」は油揚げをのせた蕎麦・饅頭、「たぬき」は天かすの入った蕎麦・饅頭を指すのに対し、関西では「きつねは油揚げをのせた饅頭、「たぬき」は油揚げをのせた蕎麦をいう。この東西境界線がどのあたりを走っているのだろうか。(f)の醤油は、関東では大豆と小麦をほぼ等量に使う濃口醤油、関西は大豆に小麦または米を使う薄口醤油であるが、薄口といっても関東の濃口より塩分が多い。

調査項目(12)は住文化圏と関わる。西文化圏の古層の範囲を明確にするための調査項目であり、坪井洋文(1982)の民家の分布図が参考になるが、地床(地面・土座)形式の民家は氏の調査時点でもほとんど消滅している。今回の調査では新たな項目を立てることも検討しなければならない。

方言文化圏を探查する(13)～(16)および(21)を調査すれば、おおよその方言文化圏の境界線が明らかになるが、大量かつ質の高いデータが『日本言語地図』ほかの先行調査で報告されているので、それを援用することも考慮したい。

項目(17)～(20)は「しぐさ文化圏」に関するものである。項目(17)は「よくやった」「OK」「承知した」「最高」「男」「彼」「お父さん」「すばらしい」の意味が予想される。マレーシアでは「生まれ」、インドネシアでは「すばらしい」「おいしい」、オランダでは「第1」「幸運を祈る」の意味がある(金山宣夫『世界20ヵ国 ノンバーバル辞典』研究者出版)。項目(18)では「女」「女の子」「彼女」「恋人」「一番あと」「最少」「劣っている」のほか韓国では「ガールフレンド」「愛人」「恋人」「めかけ」「妻」「一番あと」「最少の」「劣っている」、香港では「最後の」「よくない」「貧乏な」「約束してくれ」などの意味が予想される。

項目(19)(20)は「担ぐ」「座る」の2項目を対象とするのが無難かつ効果的かと考えられるが、新鮮味に欠ける調査結果になりそうだ。かくれた文化を発掘するという意味では、できるだけ日常生活に溶け込んでいるものがあるので、項目17～20は「しぐさ」文化圏の境界を明らかにするためのもの。項目(19)は「目を閉じ、まぶたを人差し指と中指で擦る」ことで「泣く」意味を表現する。項目(20)は「本当かなと疑う」「不信」の意味をもつしぐさである。

項目(22)～(25)は生活文化圏に関するものであり、(22)のノラ(野良)系の言い方は、中世後期にはじまったと推定され(室山敏昭『「ノラ」と「ドラ」 怠け者と放蕩者の言語文

化誌』和泉書院、43頁)、『日葡辞書』や『運歩色業集』から類推したノラの意味は「外野にたむろし、主を持たない貧人」である(同、43頁)。近世初期の1640年頃は「怠け者」、近世中期の1765年頃は「怠け者」「放蕩者」、現代では「怠け者」(優勢)、「放蕩者」(劣勢)の意味に変化してきた。一方、ドラ系は近世中期の18世紀後半では「放蕩者」、現代では「放蕩者」の意味であり、変化していない。ノラは九州・沖縄地方には分布が見られない。これらの地方には平安時代から使われてきた「不用」系のフオーモン・フオーニンが広く分布していたからである。また、近畿以西にはドーラクモン・ドーラク・ドラク・ドラ・ドラコキ・ドラツキ・ドランボなどの語形が分布(同、47頁)するが、九州・沖縄地方には分布しない。「おそらく最初に北部九州にやってきた水稲稲作集団は、土着の縄文集団が希薄な沿岸低地で水田を作り始めたのだろう。狩猟・採集と多少の原始農耕で生活していた縄文人にとって、沿岸の特に低湿地などは必須の土地ではなく、新来の渡来人が住み着く上で大きな摩擦もなかっただろう。」(中橋孝博『日本人の起源』)。

5 おわりに

理化学研究所(野依良治理事長)は、1人あたり約14万個所のDNA塩基多型の解析により、日本人は本土クラスターと琉球クラスターに大別され、本土クラスターの中の人の分布は、地域によって偏りがあり、主成分分析の結果から作成した座標において、近畿の人は本土クラスターの左上に偏りがあり、中国人のクラスターに比較的近い。対照的に東北の人は、本土クラスターの右下に偏っていて、中国人のクラスターから見て離れている、と報告(5)している。これらは近畿・中国・四国を主領域とする弥生式文化圏が中国の中央部・南部の文化圏と近似性を有し、東北文化圏が文化的に遠い関係にあることを意味し、前節までの結論と矛盾しない。

最後に、本稿は南方説を否定するものではない。稿を改めて検討したい。

注

- (1) 平澤洋一(2009.3)「日本文化の基層と境界線」(『広島大学留学生センター紀要』第8号、73～82頁、広島大学留学生センター)、平澤洋一・鄭淑源・茂木栄・松永公廣(2009.5)「Webを利用した日本文化の調査と文化圏認定基準の正当性」『情報処理学会 研究報告』2009-CH-82、47-54頁、情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会)。
- (2) 松本秀雄(1992)『日本人は何処から来たか 血液型遺伝子から解く』日本放送出版協会、104頁。
- (3) 坪井洋文(1982)『稲を選んだ日本人—民族的思考の世界—』未来社、137頁。

- (4) 田中 琢・佐原 真 (1993) 『考古学の散歩道』岩波新書, 91 ~ 2, 179, 210 ~ 12 頁。
- (5) <http://www.riken.jp/r-world/info/release/press/2008/080926/detail.html>